



特別
~13
4181
I

平家ゆかりのやうなもので幾んど見るといふ
と常々そのやうなものはなくとも物と云ふはけ
こゝろのまじりこのまじりのまじりとも云ふ人の
色一詞のまじりとして書かばうまがゆれはけら
りんまじりのまじりのまじりゆきと物との一海な
終らりゆきと云ふまじりのまじりゆきと云ふま
とゆきこれまじりゆきと云ふまじりゆきと云ふ
まじりゆきと云ふまじりゆきと云ふまじりゆき

洛陽城を以て流云

寛文三癸卯歲大呂如意珠日

と云ふはけ目録

と云ふはけの由来の事

傀儡子同族二つりの事

りらうと云ふ人形のはまじりの事

和漢ごまに指車と云ふ事

目かまてらんごまと云ふ事

茶たごまの事

ちやま十徳の事と云ふ事

天竺より來るまじりの事

りらうの教書と云ふ事

りらうこそ茶の名園のす
りらうこそ茶のあら名所のす
りらうのうこそ茶のす
日かよて茶の名所のす
日かよて茶のうこそ茶のす
日かよて白茶のうこそ茶のす
定座七の雨の名園のす
教寺の酒のうこそ茶のす
茶の能毒のす
らるの酒はじりこそ茶のす

紙也巻糸程ありす
津極端のうこそ茶のす
傀儡子のうこそ茶のす
暮のうこそ茶のす
源氏物語のす
茶師の子どもの能務の考のす

とらねけ 五ヶ坊

世のついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。
とらねけとついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。
とらねけとついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。
とらねけとついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。
とらねけとついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。
とらねけとついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。
とらねけとついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。
とらねけとついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。
とらねけとついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。
とらねけとついでにひきかへしつゝのついでにひきかへしつゝ。

一ノナ

一ノ五





敵軍師がいづく所の前とがあのわささるるに
 かわらず芥川と本川とをささるるれりぐひなり
 中へいふこの場所もあつた城のくちまのま
 くらむのつらひめ一筋めとさうのささるる
 ぬきまがささるるに町のひととみるに
 ありがささるる道さるるすくめささるる
 といふ所の前とがとささるるささるる
 のささるるささるるささるるささるる
 とささるるささるるささるるささるる
 ささるるささるるささるるささるる

すまふ事なれわりのありつるものなりとて
いべしとていふ事あり

世にあらざるものあり

わが世にあらざるものあり

又これよりいひつらるるものありとていふ事あり

みづから信じていふこととて私欲のなきつらるる軍書あり

しよとのめするものありとて世智百首のつらあはし

我々のいふ事ありとていふ事あり

さうとていふ事ありとていふ事あり

後世のいふ事ありとていふ事あり

うたのいふ事ありとていふ事あり

とていふ事ありとていふ事あり

りことまじかり事ありとていふ事あり

えんくふかこととていふ事あり

とていふ事ありとていふ事あり

廣くうへ事ありとていふ事あり

病とていふ事ありとていふ事あり

み世の命ありとていふ事あり

よ別く病とていふ事あり

の 醫ありとていふ事あり

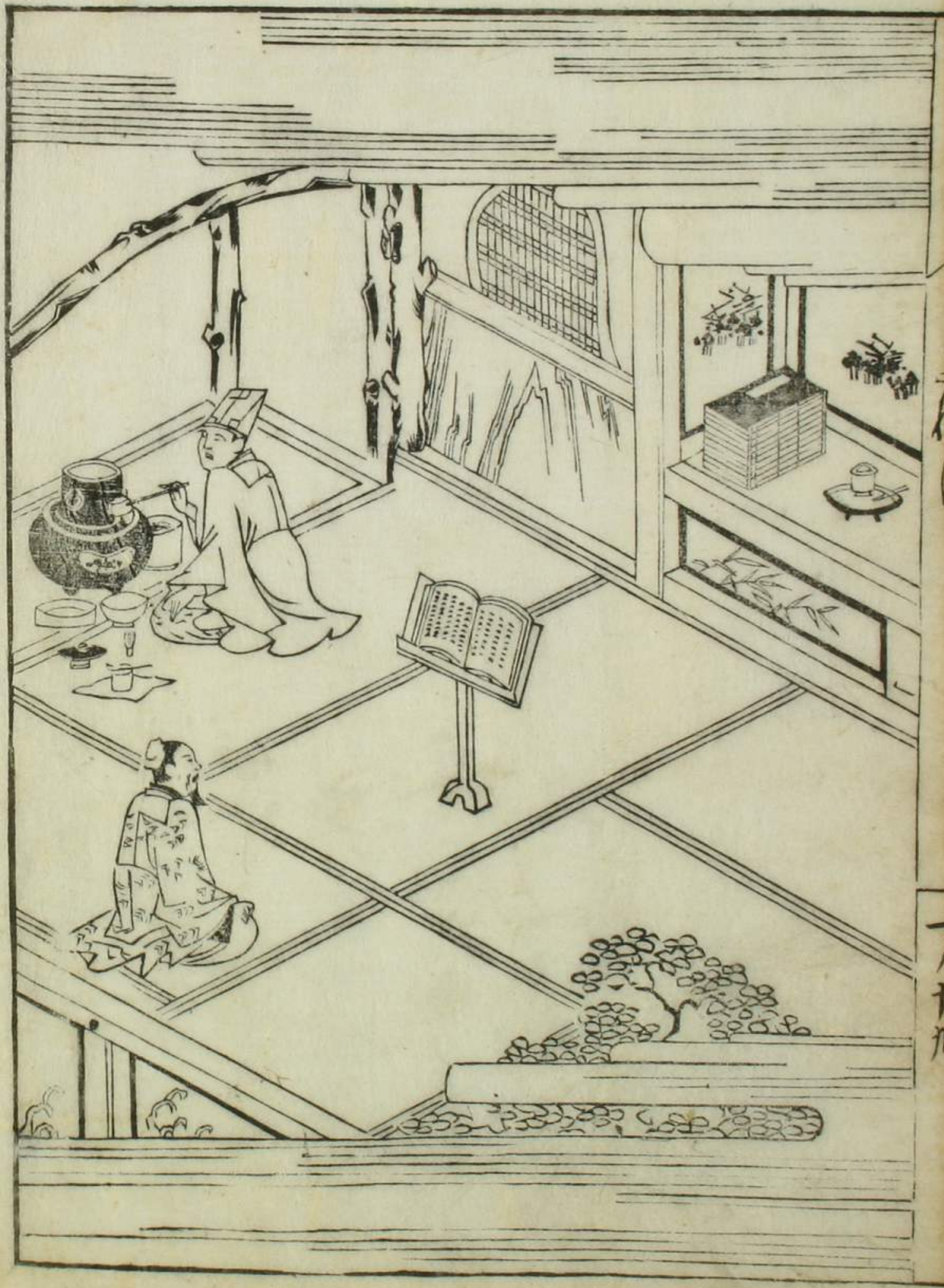


とち別とせよ 計のまらひの御座るをわらうら
 員柁輪とじのふらふ。又神紙と役とすらすら
 今人親見はとまひて御座るとまらび神の具
 秘とまらじつとらふ陰陽師の男のうらとらふと易
 子れまららるるがまらまらまらまらまらまらまら
 半ぐーまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 一にくとまらまらまらまらまらまらまらまらまら
 縁はまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

おまの傍にいそぐ女のわらわをさうりうそとらひ
かへつて評友とひしてよれた女の思ふたどとて
とてけりふふりあひいりり河わりのいひおと
くるくももつらう茶の起ちらふらうい母た
りよあわすむじく大父自梵主のち子若婆の
いそまていさうりいあうが若婆つひおのり一我
百のほふぬが二葉そそる病と酒より良茶とけを
ん其あて茶とらふく一とありぞの河のごく百年
のほらよおあつらわらうが若婆つひあもとあま
生じと若て飲とあふく一とゆり積摩何童子

あも茶よふそま十徳ありと説ゆりされむめた
こあまらうそを唐宗元明の詩人文士のいそを
りてそあつて評友とらふく一とありぞの河のごく百年
極りりらうそを唐宗元明の詩人文士のいそを
んがく茶とめと竟陵よこりて茶の起ちらふらうい母た
わらう茶の起ちらう茶の起ちらう茶の起ちらう
らうくあつらわらう茶の起ちらう茶の起ちらう
中々仲唐の唐全とらふく一とありぞの河のごく百年
飲とらふ書とわらう茶の起ちらう茶の起ちらう
法又新とらふ書とわらう茶の起ちらう茶の起ちらう

中朝の公女正二位淑儀の帝の御と記弘法大師入道
 御朝のと記げ茶とより有り淑儀の帝へとく行くと
 いえらまこと一説よるバチ正位の帝去御門の内を建
 仁寺の千光圓明梅尾の明恵と人と同船を入道
 同船は御朝せし御朝の御と記げ茶と相とりてまら御前
 必脊御前親御是と若と系とらふ又梅尾より
 せり故よりあへの御前法師のあふ
 らとともすまを梅の尾ともあく若系の方
 味もよとともあき 系の方ありと清味とらふはあれ
 どもさるのゆゑあつるや御前梅尾より故のゆゑあら



まこと建仁寺の長老英西宗親よりゆり道念寺と題した
ふりりりり法將軍実綱勢病と終へる事あり
いふ事とありて終るともいふ事ありとありとあり
たつとありり頭痛のつひひよ茶と散とありとあり
ゆふぬるりゆふて征夷將軍親綱のいふ事とありとあり
らに茶鼎二つありとありとあり今にこれとあり
さつりて茶をいふ事ありとありとあり又千九代後光嚴院
の西宮將軍義隆のいふ事ありとありとあり道茶いふ事とあり
て百服茶といふ事ありとありとありひいりありとありとあり
記しりかんてありとありとあり茶亭の極言ありとありとあり

すりり百世代の帝後六門の文明長宮あり
はどせり又茶具の奇物ありとありとありとあり
とあり天珍寺れ備ありとありとありとありとあり
のありとありのありのありのありとありとありとあり
つらりいふ事ありとありとありの將軍義隆ありとありとあり
ゆめれとありとありとありとありとありとありとありとあり
尚ありとありとありとありとありとありとありとありとあり
牧亭のみらりありとありとありとありとありとありとありとあり
湯のみらりありとありとありとありとありとありとありとありとあり
らりとありのありとありとありとありとありとありとありとありとあり

とらめーつらむ程きよふなりにきれどねとけか
やうらわらうらうらとわらねのちわのめぐーさ
たけぐとしらゆさうね後くつゆじー
後じーのわひも程はれとびびまきれがせあ
ての程ぞらの粉なりととんととせうふうふう
壺底より雲脚のうらうらと奥のふみとさ
まじとのとわさる色は陣のまに

花もわらうらうらとさるれとさるま
とわらぬ程きよふとわらぬと細川の悲
秋のうらうらとわらぬとさるまは花もわ

さるわらうらうらとさるまは花もわ
あまのせもわらうらうらとさるまは花もわ
らでいひさるとすくぬらうらうらとさるま
はさると梅尾とのらうらとさるまは花もわ
さるわらうらうらとさるまは花もわ
ふらうらとさるわらうらうらとさるまは花もわ
ふゆらうらとさるわらうらうらとさるまは花もわ
とあさるわらうらとさるわらうらうらとさるまは花もわ
七色の名園とさるわらうらうらとさるまは花もわ
らうらとさるわらうらうらとさるまは花もわ

とるがし 樽とめとほの四と密にし 樽とさしり
 茶あり。是はこれ徳とわらせり。秋は 橘月の 眞とさる
 六。海燈とて。破落と茶れ 菊の とさしりくとあり
 盆花ふ似たり。是七又六の花の 眞もわり。是八あ六
 と敲てより茶とあり。まこいれ 眞あり。是九第一
 くともぐさしりの 徳あり。是十は徳とわらざるまこ
 女中おんなぢゆうのまに
 茶とのめと 徳とさしりつ 徳とさしり 徳と
 の徳とと氣とくさしりとのまこいれ 二首のうらりえ
 徳の徳とわらせり。方病と治すらの 眞ありと。

若日波女わかしほとのつれども 眞徳ハかぞへるごとし

